【382】

氏　名（本籍）	山田茂樹（茨城県）
学位の種類	博　士（農　学）
学位記番号	博　乙　第　2532　号
学位授与年月日	平成23年2月28日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	**国産材ビジネスモデルの展開とスギ新興林業地** －1990年代高知県嶺北林業の発展と停滞－

主　査	筑波大学教授	博士（農学）	志賀和人
副　査	筑波大学教授	博士（農学）	加藤衛拡
副　査	筑波大学教授	農学博士	中村　徹
副　査	筑波大学准教授	博士（農学）	興梠克久
副　査	林業経済研究所所長	農学博士	餅田治之

論文の内容の要旨

本研究では、1990年代を国産材ビジネスモデルの転換期として位置づけ、製材業の企業戦略とその実現に適した林業構造の形成という視点からスギ新興林業地の典型である高知県嶺北地域の発展と展開を分析した。これまで林業構造の規定要因は、所有構造と森林経営の性格に重点が置かれ、林業地の趨勢を左右する大山林所有者の存在とその育林技術体系による良質材生産を中心とした林業地や国有林地帯の分析が主な対象であった。しかし、スギ新興林業地にはそのような大規模所有や独自の育林技術体系はなく、1990年代には欧州産ホワイトウッドとの競争などにより、我が国の木材需要構造は大きく変化した。そのため、製材業の市場対応が重視され、国産材ビジネスモデルの展開と製材業を規定要因とした林業構造の関連分析が重要となる（序章）。

第1章では、国産材ビジネスモデルの検討、嶺北林業の基礎構造および1990年代への展開の方向性を検討した。1990年代には、原木消費量1～3万m^3程度の製材工場が国内市場でのシェア拡大を目指し、安定的原木供給のために原木市場などの流通体制と高能率な素材生産体制が整備され、林業構造の形成が図られた。これに対し2000年代には、本格的国際競争により原木消費量10万m^3を超える製材工場が出現し、原木安定供給への要求がはるかに強まったため、林業構造形成の推進力は地域の林業関連主体の組織化から有力製材工場への原木供給に向けた統合化に重点が移行した。

第2章では、1990年代前半の林業構造の特徴と展開過程を実態調査により明らかにした。嶺北地域では新設製材工場と素材生産事業体とが原木市場を介して結びつき、地域産材販売のためのシステムが形成された。嶺北地域は1980年代半ばまでは原木供給地的性格が強かったが、1985年からの林業構造改善事業の導入により1万m^3を超える規模の低コスト量産工場と高能率な素材生産事業体の新設、原木市場の整備などが推進された。その意図は大規模製材業を核にした原木供給体制整備であり、1990年代モデルの実現にあった。この結果、加工と素材生産の各過程上層に新設工場と高能率事業体が加わる林業構造の変化が生じた。

第3章では、1990年代半ば以降の地域システムの展開力喪失の実態と要因を製材業の展開力と地域林業

の組織者に焦点を絞り実態調査により分析し、嶺北林業の停滞が2000年代の国産材ビジネスモデルへの発展機会の喪失によることを明らかにした。この時期、製材業ではほとんどの工場で乾燥材需要への対応が十分ではなく、製品販売先は地域内と地方都市市場に限られていた。また、唯一、乾燥材需要に対応した工場の展開戦略は個別需要への対応であった。このため製材業は大規模需要と結びつけず2000年代への発展の契機を失い、構造形成の牽引者たり得ず原木需要の拡大は停滞した。また、素材生産業も森林組合も製材業に代わり牽引者とはなれなかった。

第4章では、森林所有者の経営の後退局面を既存資料と実態調査により明らかにした。1990年代前半、所有規模20～100haの林家の一部と大規模林業会社も含めた専業的経営体には一定の活発さがあった。しかし、1990年代後半には木材価格の低下が進み、地域林業の牽引者を失った中で、森林所有者は将来の展望を描けず経営の後退局面が強く表れた。森林所有者には1995年時点で広く経営意欲の減退がみられ、後継者の不在などの深刻な問題に直面していたが、この時期以降、経営の後退が加速し、「土地込み」での立木販売など森林所有からの撤退が生じるに至る。民有林素材生産量は1995年を境に停滞した。

以上のように、スギ新興林業地の典型である高知県嶺北地域における1990年代前半の発展は1990年代の国産材ビジネスモデルによるものであり、後半の停滞は2000年代のビジネスモデルへの展開の契機喪失による。これは、1990年代のスギ新興林業地の展開では製材業が重要な役割を果たし、その展開による素材生産、原木流通過程の再編が林業構造の変化につながる林業構造形成における製材業の規定性が示されている。本研究の意義は、このようなスギ新興林業地の1990年代の展開を分析する際に製材業を構造規定要因とした林業構造分析という手法を提示したことにある（終章）。

審査の結果の要旨

本研究は、スギ新興林業地の典型である高知県嶺北地域の1990年代における発展と停滞の要因を、詳細な現地調査に基づき分析し、それが製材業の企業戦略とその実現に適した林業構造の形成という、国産材ビジネスモデルの展開によることを実証的に明らかにした。分析方法では、製材業を林業構造の規定要因とした国産材ビジネスモデルの展開と林業構造の関連分析が用いられ、林業構造の規定要因を主に所有構造と森林経営の性格に置いた従来の林業構造分析に対し、木材需要構造に大きな変化が生じた1990年代の展開を分析する新たな手法を提示した。

本研究では、現地での面接調査結果と収集一次資料に加え、既存統計資料も使用し、分析に必要な事項について妥当かつ十分な情報収集を行っており、研究資料の扱い方についても適切であると判断された。また、論旨の展開とその論証の過程も妥当である。この研究は、高知県嶺北地域を事例に1990年代のスギ新興林業地一般を特色づける分析として、さらなる研究の展開が期待できる。

よって、著者は博士（農学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。